

## 滋賀県立近代美術館協議会(第34回)概要

1 開催日時：平成24年(2012年)2月29日(水) 午前10時00分～12時15分

2 開催場所：滋賀県立近代美術館 会議室

3 出席者：○滋賀県立近代美術館協議会委員 8名

上野真知子委員 尾崎正明委員 北川邦之委員 澤野二郎委員 辻喜代治委員  
松江仁委員 三原サダ子委員 山添道子委員

○滋賀県立近代美術館事務局

秋山館長 菊井副館長 高梨学芸課長 伊藤総務課長

西川文化振興課長

### 4 会議次第

(1) 滋賀県立近代美術館 秋山館長 あいさつ

(2) 議 事

①平成23年度事業実績について

②平成24年度事業計画(案)について

③その他

### 5 概要

(1)平成23年度事業実績について

#### 【委員】

○先程、P6の広報宣伝のところでパブリティの活用がうまくいかないとのことだが、具体的にどんな取り組みをしてきたのか。在阪の放送局への直接のアプローチはしているのか。

#### 【事務局】

○県政記者クラブへの資料提供が中心であるが、中々記事にまで至らない。県民の皆様の興味を引く素材でなければならぬし、その出し方にももっと工夫が必要なのかも知れない。在阪の放送局へは展覧会の案内を幅広く出しているが、パブリティにまでは至っていない。

#### 【委員】

○できればもっと在阪メディアへ直接アプローチされたらどうか。今回の「神仏います」は3館とも内容もよかったが、「神仏います」とはなんだろうという考えさせるキャッチフレーズ(タイトル)だったのではないか。ちょっとした仕掛けで記者の食いつきが変わってくる。

#### 【事務局】

○「神仏います近江」は3館実行委員会による開催であり、いろんなノウハウをお持ちのMIHO MUSEUMのお力もお借りして東京でのプレリリースも行った。

#### 【委員】

○3館連携では「滋賀ならではの」ということであつたと思うが、それでいくとヨーロッパ絵画

展や兵庫県立美術館のものは、なんか地味だなあという印象を受ける。友人に言わせると「小磯はいいが…」ということになる。キャッチの部分でもっと工夫があってもいいのではなかったのか。

**【委員】**

- 五味太郎展は子どもとかデザインに興味のある人を狙いとしているようだが、こうした傾向は企画の中で一定化してきているのか。観覧者数も善戦している。その一方、神仏います展はもっと入ったと思っていたが以外に少なかったようだが。

**【事務局】**

- 近畿地方ではあまりサブカルチャー的なものを取り上げるところが少ないということおよび経費的なことがある。それと、夏休みにはこういったこともやっていこうと考えており、今後も続けていくことになるのでは。神仏いますは MIHO MUSEUM が一番多かった。MIHO は不便な立地にも関わらず観覧者数が多いのは、母体がしっかりしていることに加えて、広報専任の担当者があり、分業化も確立されており旅行業界のノウハウも豊富なようで努力されている。

**【委員】**

- MIHO MUSEUM については、いつ行っても楽しませてくれる仕掛けがなされている。一方、近代美術館はアクセスとしてはそれほど悪くないのに、文化公園のどこにあるのかなあという感じがする。食事やショップで何か名物が必要なことと同じで、なにか仕掛けはほしい。

**【委員】**

- ミュージアムショップが移転改修され、注目を浴びているが、エントランスが随分暗くなったとの印象を受けるので、何か工夫をお願いしたい。

**【委員】**

- 省エネの影響もあるのか。LED への転換の取り組みはどうか。また、空調など設備関係は大丈夫なのか。

**【事務局】**

- LED は県庁舎全体としては少しずつ試験的に導入されているようで、当館でも県のモデル事業を使ってとりあえず展示室以外での部分的設置を予定している。開館からほぼ30年が経っており施設は外観の割には損傷が激しく、全体として、館に手を入れるとしたら、新生美術館の基本設計の中で検討してもらうこととなる。特にトイレの苦情はいつも多い。また、五味太郎展では授乳室の要望も多かったが、とりあえず静養室で対応した。

**【委員】**

- お子様連れの方にとって、トイレとカフェは必須である。

(2)平成24年度事業計画について

**【委員】**

- 現代美術の学芸員がおられない中、成安造形大学とのコラボ、『自然学』～来るべき美学の

ために～の方向性としてどういったものになるのか。タイトルとしては面白そうですがどんな展示になるのか。

**【事務局】**

○今具体的に詰めているところである。成安は、今春、ロンドン大学のカレッジと共同企画されるが、必ずしもそのままの凱旋企画ではない。その際、ベースとしては、環境に熱心な本県でもあり、自然環境を視野にしたインスタレーションとか立体を考えている。成安とは連携関係にあり、成安で今活躍されている若い先生方の展覧会を組んでもらうことにしている。また、ギャラリーではもっと若い人の作品も展示していきたい。今現在の連携事業としては、高田敬輔の模写、夏休みのワークショップ開催などであり、実質的な連携を考えるとこうしたことも何年かに1回はやっていってもいいのでは。

**【委員】**

○やはり若い世代の人に来てもらわなければなりませんね。県内の大学生を対象とした広報が大切である。

**【委員】**

○基本的にはインスタレーションなど現代美術ですよ。出品者は成安だけなのか。

**【事務局】**

○成安以外も考えている。

**【委員】**

○伝統工芸展は周年事業なのか。

**【事務局】**

○5年ほど前にもあった。

**【委員】**

○10月に開催する石山寺の企画はいいと思う。申すまでもなく、石山寺参詣の人に美術館に来てもらうよう仕掛けが欲しい。石山寺も昨今もみじ祭に力を入れられている。さらに、瀬田川流域観光協会、石山観光協会など観光協会との連携も視野に入れたらどうか。

**【委員】**

○開催期間が長いが、縁起絵巻7巻全部全期間公開になるのか。

**【事務局】**

○重要文化財なので公開には制約がある。30日しか公開できないので7巻とも揃うのは、20日あまりである。摸本もあるので補っていく。

**【委員】**

○京都の観光の方などは保存修理も興味があると聞く。それと、展覧会のタイトルですが、何か地味な感じがする。もっとインパクトのあるものにできないのか。他館と比べてもおとなし過ぎる。

**【委員】**

- チェブラーシカには若い人も来館すると思うが、もっと目につくような広報ができないか。例えば、大学のある瀬田駅や南草津駅などで駅貼広告を行うとか。それと、若い人の興味を引くグッズをお願いしたい。

**【事務局】**

- 広告はどうしても費用がネックになる。石山寺縁起絵巻では少し考えているが、余り目新しいものはない。

**【委員】**

- 「美術館に行こう」という駅で配布されているフリーペーパーに近美だけ載っておらずがっかりした。

**【事務局】**

- JAFとは読者プレゼントなど積極的にやっている。その他の新聞・雑誌とも積極的に実施している。

**【委員】**

- ネットの係はどこになるのか。

**【事務局】**

- 基本的には、教育普及担当の学芸員がやっている。

**【委員】**

- アール・ブリュットの作品は所蔵しているのか。また兵庫県美との学芸員の交流はあるのか。

**【事務局】**

- 当館では収集しておらず、展覧会では借用する。兵庫県美との交流はない。

**【委員】**

- 夏の成安造形との展覧会では若い人の作品が展示されるということだが、県内の若い人はなかなか展示する機会のないので、小中学校・高校の美術教育部会との連携もぜひお願いしたい。

(3) その他 (滋賀県立近代美術館機能・発言力強化検討委員会報告書の説明－滋賀県立近代美術館の今後のあり方)

**【委員】**

- 今回提言が出された段階であり、今後基本計画が策定されるわけだが、先行きが見えない中、新たに3つのことを期待するのは難しいような気がする。前回も指摘したが、こうしたケースでは、箱づくりで終わってしまうことがよくある。「人」の手当てを特にお願いしたい。それがないと中途半端なものに終わる。まして、アール・ブリュットと仏教美術という全く対照軸にあるものをやるということを目覚めてほしい。

**【事務局】**

そういったことも含めて提言されており、基本計画の策定に活かしていきたい。